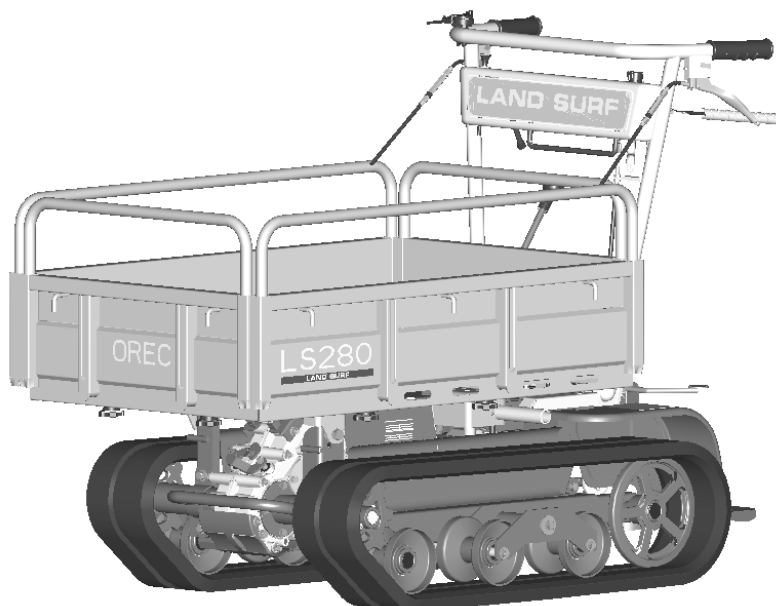


取扱説明書

小型運搬車

“ランドサーフ”

LS280



0914-00000



- 取扱説明書本文中にてでくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《機械を他人に貸すときは》	6
《方向について》	6
《仕 様》	7
《各部の名称》	8
《各部のはたらき》	9
《上手な運転と操作のしかた》	10
・ 運転前の始業点検	10
《エンジン始動・停止のしかた》	10
・ ダンプ操作のしかた	10
・ 燃料の点検と補給	12
・ エンジン停止のしかた	14
・ エンジンオイルの点検と補給	11
・ エンジン始動のしかた	12
《走行・変速・停止のしかた》	14
《立ち乗り操作のしかた》	17
《トラックへの積み降ろしのしかた》	18
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	19
・ ミッションオイルの点検・補給・交換	19
・ エンジンオイルの点検・補給・交換	20
・ 可動部への注油のしかた	20
《各部の点検・整備・調整のしかた》	21
・ 点火プラグの点検・調整のしかた	21
・ エアクリーナの清掃のしかた	22
・ 燃料パイプの点検のしかた	23
・ 燃料フィルタポットの清掃のしかた	23
・ 各部ワイヤ・ベルト調整のしかた	24
《長期保管のしかた》	27
《工具袋明細》・《消耗品明細》	28
《定期自主点検表》	29
《故障の原因とその処置》	31
《エンジンの不調とその処理方法》	32

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後は必ず大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようにご活用下さい。

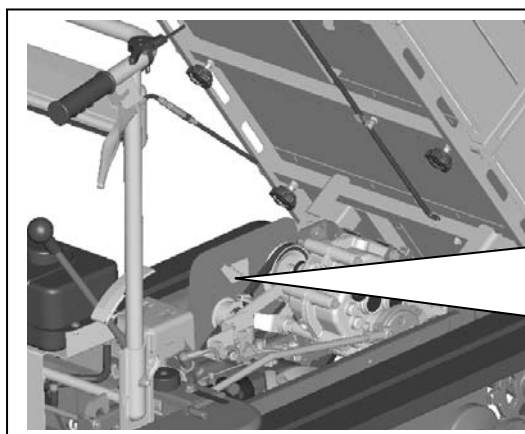
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品は、作業圃場内での農業生産物、あるいは一般生産資材等の運搬を目的とした歩行型の運搬車として設計・開発しておりますのでそれ以外の用途には使用しないで下さい。また、道路及び一般交通に供するような場所（農道、林道、公共広場等）では走行できません。車両ナンバーを取得することもできません。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。



種類 Description	農用運搬機(歩行型)
型式名 Model	LS280
区分 Type	
製造番号 Serial No.	FD00000000
発売元	株式会社 オーレック
OREC 株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON	




参考；

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等による故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

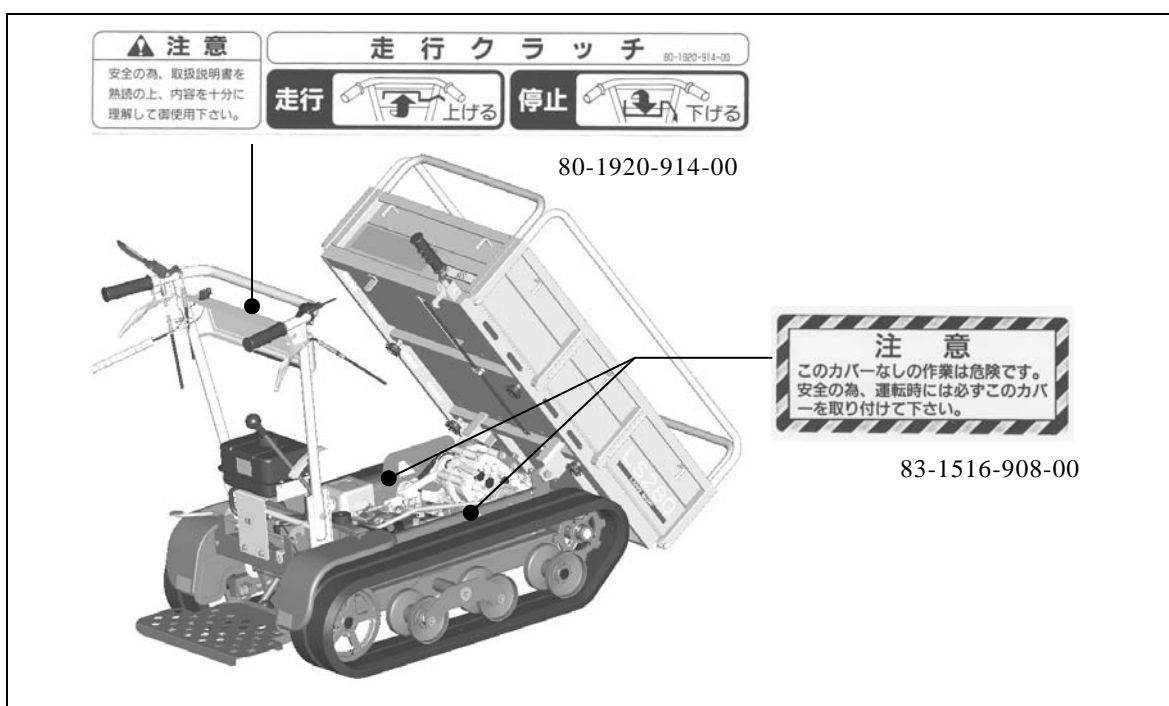
本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

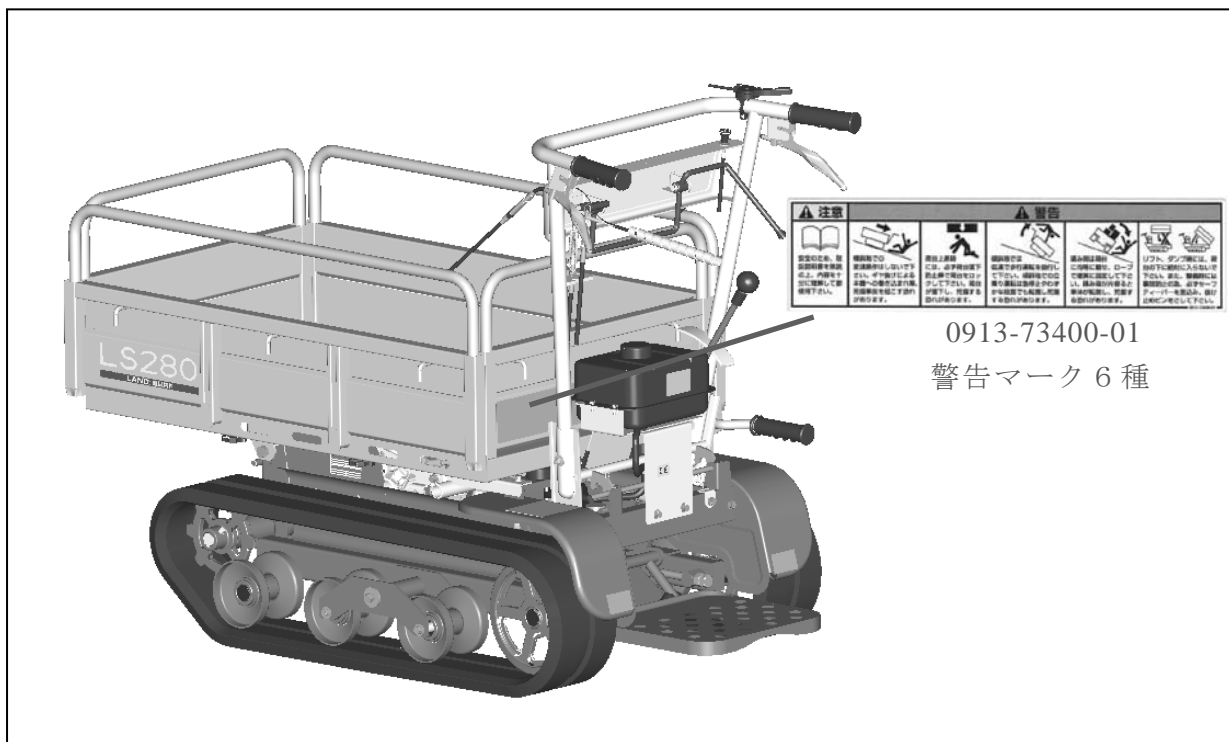
シンボルマーク	定 義
 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考 ；	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》

（１）警告表示マーク

- 以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …警告表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 (28 頁…消耗品明細参照)
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので、絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- 運転の前に 25 頁に従って始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修して下さい。
- 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 所有者以外の人には使用しないで下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作ができないときには作業しないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、本書及び各種マークの内容が理解できない人や子供にも作業させないで下さい。
- 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や安全靴、ヘルメットを必ず着用し軽装やサンダル履き等での作業はしないで下さい。

▲ 安全のための保護カバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。事故防止のため、これらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

点検等で保護カバーを取り外したときには、必ず元通りに取り付けて作業を開始して下さい。

- 必ず、駆動 sprocket、転輪、テンションローラが確実に取り付けられているか点検し、緩んでいるときはしっかり締めて下さい。
- 荷台に人を乗せないで下さい。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。
- 軟弱な圃場内、又は走行中のリフト操作は絶対にしないで下さい。重心の移動等が起こり本機の転倒等、大変危険です。
- 荷台をダンプあるいはリフトしたまま作業をしなければならない場合には必ずエンジンを停止し、荷台落下防止棒を使って荷台を確実に固定して下さい。
- 障害物を事前に確認してから作業を開始して下さい。また、急傾斜及び軟弱な路肩、地面の凸凹等のある区域での作業は危険なため、作業を行わないで下さい。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

- ・走行クラッチが「停止(下側)」位置の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止し、ベルト・ベルト押え・ワイヤを点検調整して下さい。

▲ 15°～20°の傾斜地では、積載量を125Kg以下にして走行して下さい。20°を越える急傾斜地では、本機を使用しないで下さい。

▲ 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目(路肩)を走行する場合は、車両の重みで路肩が崩れる危険があります。特に軟弱な路肩付近では速度を落とし、慎重に走行して下さい。
- ・見通しの悪い場所や狭い橋、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分に行って走行して下さい。

▲ 暗い時、視界が悪いときの作業は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

(3) 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 燃料、油脂の取り扱い時(給油時等)は、絶対に火気(タバコの火等)を近づけないで下さい。

▲ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチは「停止(下側)」位置で始動し、各レバーの位置と周囲の安全を確認してからゆっくりと発進して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

〈18頁参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車して下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは前進「①」位置で、降ろす場合には後進「R」位置でゆっくり行いその他の位置には絶対に入れないで下さい。

▲ トラックへの積み降ろしは必ず荷台は空の状態で行って下さい。また荷台をリフト及びダンプリしたまま積み降ろしをしないで下さい。転倒の恐れがあります。

(6) 走行時の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
- ・軟弱な地盤や濡れた路面での急旋回及び急停車は、スリップや転倒を招き危険です。
- ・走行時は、路面の勾配、路面の状態及び積載量に応じた安全速度で走行して下さい。

▲ 排気マフラ付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。

- ・後進時は人や動物等、障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がないよう足場に注意して下さい。
- ・ベルトスリップによる異常な音、匂い、発熱は火災の原因です。その様な時はすぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

- ▲ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり泥詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。
- ▲ 傾斜地ではまっすぐ昇り降りして下さい。特に積載時に斜面を横断すると転倒の恐れがあります。やむを得ない場合には、逆旋回に注意しながら確実に操作して下さい。
- ▲ 坂道では歩行運転を心掛けて下さい。坂道で立ち乗り運転をすると、本機の重心の変動により、本機が浮き上がる場合があります。危険です。
- ▲ 下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がる恐れがあります。危険です。

(7) 積載時の注意

- ▲ 本機の仕様で規定されている最大積載能力を超える積載はしないで下さい。
 - ・ 木橋等を渡る時は、本機の機械重量と積載量及び作業者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を越えないことを確認し、一定速度で慎重に通過して下さい。
- ▲ 積み荷は偏重にならないよう、荷台に均一に乗せ、ロープで固定するように心掛けて下さい。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意して下さい。

(8) 駐車時の注意

- ▲ 駐停車の際は足場のよい平坦地に本機を止め、危険な場所での駐停車はしないで下さい。
 - ・ 坂道での駐停車は極力避けて下さい。やむを得ず坂道で駐停車する場合には、駐車ブレーキを確実にかけた後輪止めをし、本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物はキーを抜いておいて下さい。
 - ・ 安全のため、燃料コックは必ず「閉(OFF)」位置にしておいて下さい。
- ▲ 草やワラ等の可燃物の上に本機を止めないで下さい。排気管の熱や排気ガス等により引火する恐れがあります。

(9) 点検・整備時の注意

- ▲ 機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。やむを得ず室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。
 - ・ 取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
 - ・ 点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
 - ・ 走行（駐車）ブレーキについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には作業をさせないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取り扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取り扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

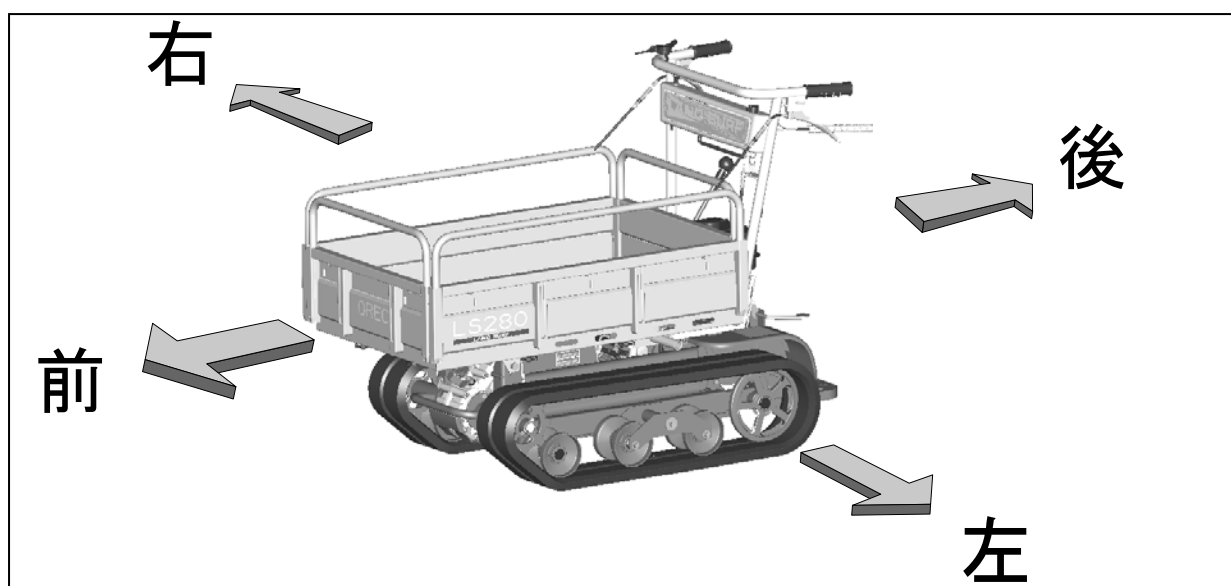
機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。



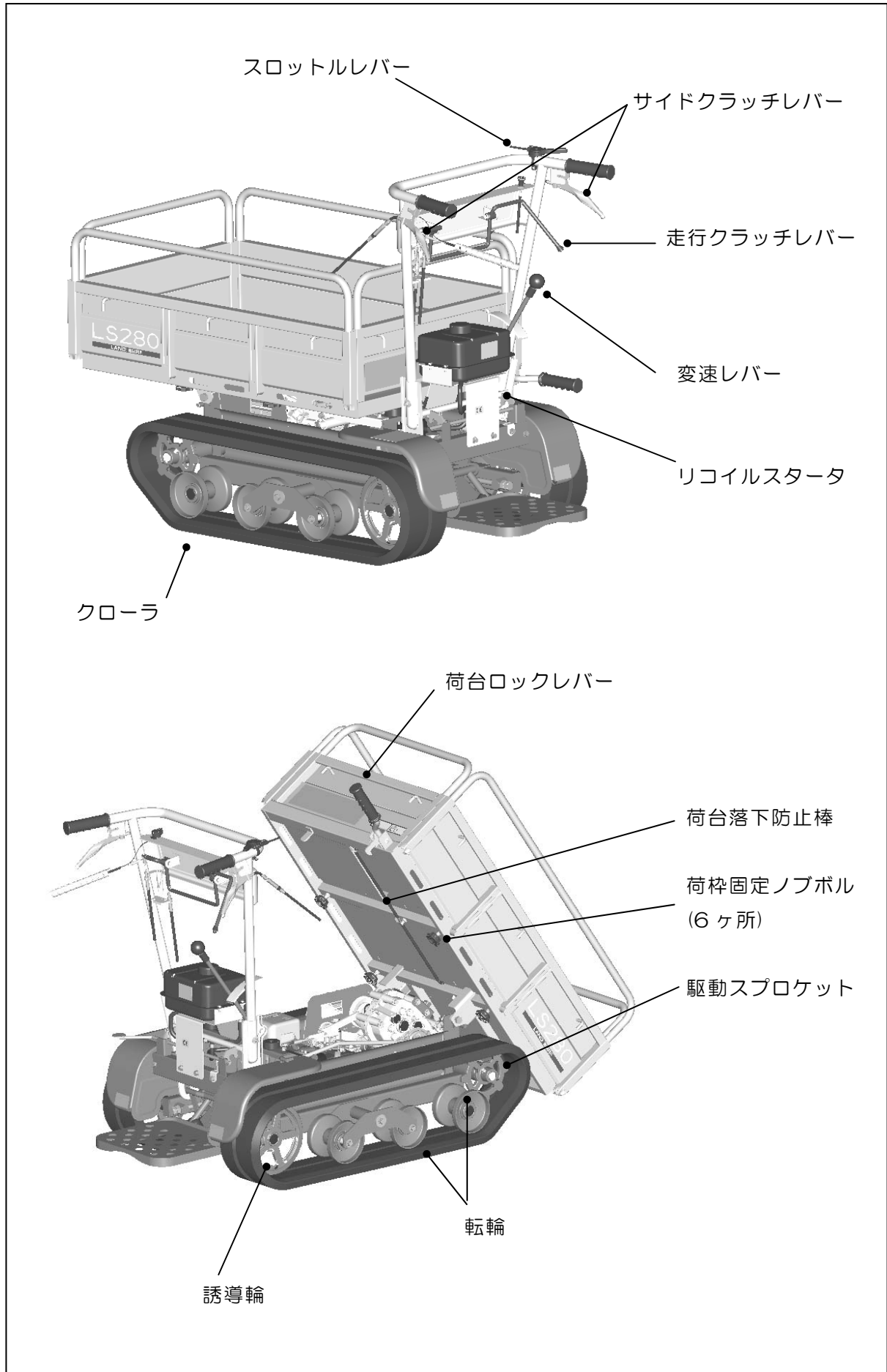
《仕 様》

型 式		LS280	
重 量 (Kg)		135	
最大積載能力 (Kg)		250	
本 機 寸 法	全 長 (mm)		1,320
	全 幅 (mm)		680
	全 高 (mm)		1,010
	クローラ接地長さ (mm)		690
	クローラ中心距離 (mm)		530
	最低地上高 (mm)		67
	床面高さ (mm)		410
荷 箱	荷 箱 内側寸法	長 さ (mm)	920(1,100)
		幅 (mm)	590(955)
		高 さ (mm)	190
走 行 性 能	走 前 行 進	①速 (Km/h)	1.5
		②速 (Km/h)	3.4
	速 後 度 進	①速 (Km/h)	1.5
最小回転半径 (m)		0.82	
登坂能力 (度)		25° 〈空車時〉	
ミッション油量 (ℓ)		1.6	
ベルト		LA28	
駆 動 系 装 置	ク ラ ッ チ		ベルトテンション方式
	変 速		ギヤスライド
	操 向 装 置		ドグクラッチ&爪ロック式
	駐車ブレーキ		内拡式ブレーキ
	クローラ		160W×60P×35L
昇 降	ダ ン プ 方 式		手動一方ダンブ
	最大上昇角度 (度)		50°
エ ン ジ ン	名 称		カワサキ
	型 式		FJ100D
	潤 滑 油 量 (ℓ)		0.45
	最大出力 (PS/rpm)		3.0/4,000
	始 動 方 式		リコイルスタータ
	総 排 気 量 (cc)		100
	点 火 プ ラ グ (NGK)		BR6HS
	燃料タンク容量 (ℓ)		2.8

※()内寸法はサイドフレーム延長時を示します。

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを引き上げると「走行」位置、押し下げると「停止」位置になります。

● 右手親指の操作でハンドルから手を離す事なく「停止」位置にすることもできます。

また、このレバーはブレーキ連動式となっており、レバーを押し下げると同時に駐車ブレーキも「入」の状態となります。

歩行操作時には、後進時にハンドルと障害物との間に作業者が挟まれるのを防止する“緊急停止装置”となります。

② 変速レバー

走行速度の選択に使用します。

変速は前進が「前進①」・「前進②」の2段、後進は「後進①」の1段です。

変速操作は走行クラッチレバーを「停止」位置にして、本機が停止した状態で行って下さい。

▲ 注意

走行クラッチレバーが「走行」位置のまま変速レバーの操作を行うと、危険なばかりでなく、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

③ 荷台ロックレバー（手動）

荷台をダンプさせるときに使用します。

レバーを握り、そのまま上に引き上げて下さい。

④ ハンドルロックペダル

解除レバーを足で一旦「解除」方向に踏み込んだ後、ハンドルを前方に押すと、連動してステップが下がります。（立ち乗り時）

逆にハンドルを手前に引くと、連動してステップも跳ね上がり格納されます。（歩行時）
両位置ともに解除レバーを確実に「ロック」させます。

⑤ サイドクラッチレバー

進行方向を変えるときに使用します。

本機はレバーを握った方向に旋回します。

▲ 警告

サイドクラッチは、車速を十分に落として小刻みに操作して下さい。高速で操作すると急旋回となり、大変危険です。

⑥ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

《上手な運転と操作のしかた》

運転前の始業点検

- 安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈29 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。
- 本機に必要なオイルは出荷時に注油されていますが、ご使用前に再度指定の個所に指定の良質なオイルが注油されているかご確認下さい。点検は広い平坦な場所で行って下さい。
- 定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態を使用するためにもぜひ必要です。
- 運転及び各レバーの操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないで下さい。
 - 交換後の廃油は適切な処置をして下さい。
 - 本機に貼付された注意、危険マークもよく読んで理解して下さい。

《エンジン始動・停止のしかた》

▲ 警告

- ①締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒により死傷する恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火して危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ④エンジンの暖気運転は、締め切った部屋では行わないで下さい。
- ⑤エンジンオイルの点検はエンジン停止後(約 5 分以上)、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

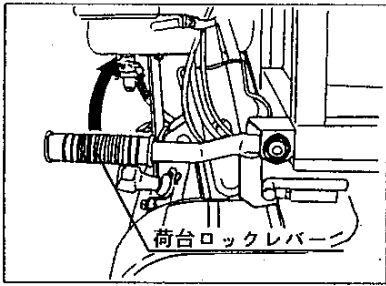
ダンプ操作のしかた

▲ 警告

- ・荷台に荷物を積載したままのダンプ操作は行わないで下さい。操作が重くなるばかりでなく、重心の移動により積み荷又は本機の転倒等、非常に危険です。
- ・荷台を上昇して荷台下等の点検を行う場合には、危険防止のため、備え付けの荷台落下防止棒を使って荷台を確実に支えて下さい。
- ・傾斜地や積み荷が前方に片寄っている場合に荷台のロックを解除すると、同時に荷台が急激にダンプする場合がありますので、十分に注意して下さい。
- ・傾斜地でのダンプ操作は、荷台の上昇に従い重心位置が高くなるため本機が不安定となり、非常に危険ですのでやめて下さい。やむを得ない場合にはクローラ下にりん木等を敷き本機を水平に保って下さい。

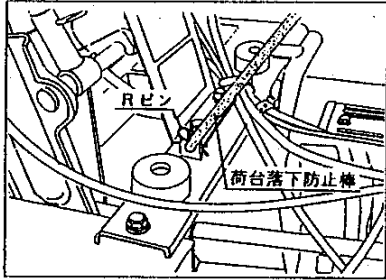
▲ 注意

- ・ダンプ時には周囲の安全を必ず確認して下さい。
- ・ダンプ操作は、本機に衝撃を与えないようにゆっくりと行って下さい。

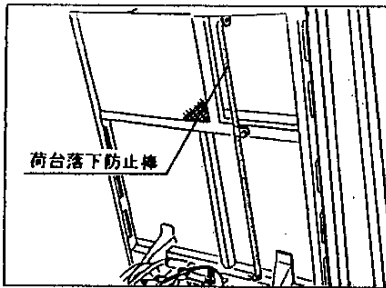


□ 荷台の上昇

- ① 荷台ロックレバーを握り、そのまま荷台を手で前方に持ち上げてください。



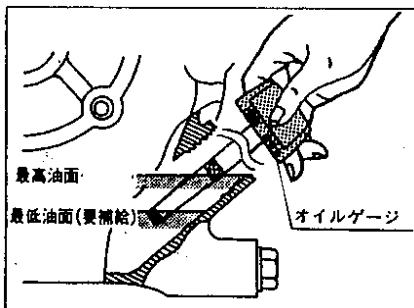
- ② 荷台を荷台落下防止棒で確実に支えて下さい。



□ 荷台の下降

- ③ 荷台落下防止棒を荷台から取り外し、本機フレームに格納して下さい。
- ④ 荷台ロックレバーを握り、荷台を手動で後方へ倒し、一番下まで押し込むと荷台はロックされます。
- ⑤ 荷台ロックレバーを操作せずに荷台を上を持ち上げ、荷台が確実に「ロック」されているか確認して下さい。

エンジンオイルの点検と補給



- ① エンジンオイル量を点検して下さい。

オイルレベルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

…エンジンオイルの補給は付属のジョウゴにホースをつないで行って下さい。…

(ともに付属の工具袋に入っています。)

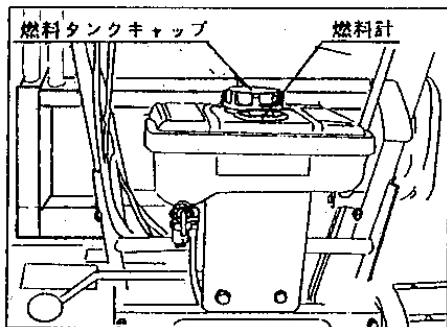
参考；エンジンは水平にして給油栓はねじ込まず差し込んで点検し、オイル注油後はしっかりと取り付けて下さい。

参考；使用するエンジンオイルはSD級以上の良質なオイルを使用し、気温によって下記のように使い分けて下さい。また交換の目安も下記の通りです。

夏期(10℃以上)	SAE30,SAE10W-30,又は SAE40	交換の目安
冬期(10℃以下)	SAE5W20 又は SAE10W-30	初回：5時間目、2回目以降：50時間毎

※但し、高負荷又は高温下での連続長時間の使用では、短時間での交換をして下さい。

燃料の点検と補給



①燃料を確認して下さい。

燃料計のゲージが「E」に近づいたら早めにレギュラーガソリンを補給して下さい。

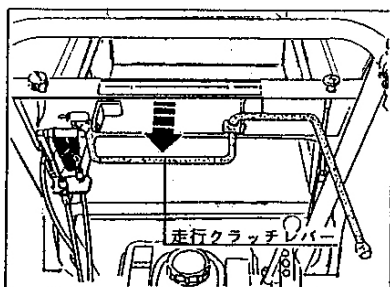
使用燃料：レギュラーガソリン

燃料タンク容量： 2.8リットル

⚠ 危険

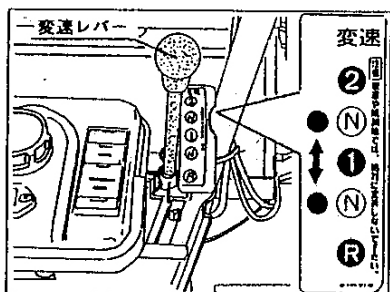
- ・ 燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・ エンジンとマフラが冷えているのを確認した後、注油口内の給油限界レベル線以下まで給油し、もし燃料がこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。火災の危険があります。

エンジン始動のしかた

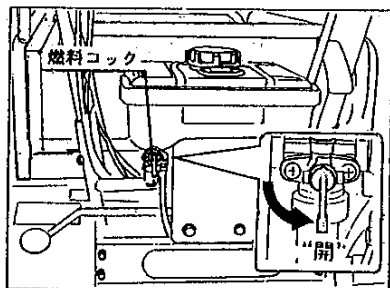


①点検終了後は、必ず荷台を元の位置に戻して下さい。
<10 頁…荷台ダンプ操作のしかた参照>

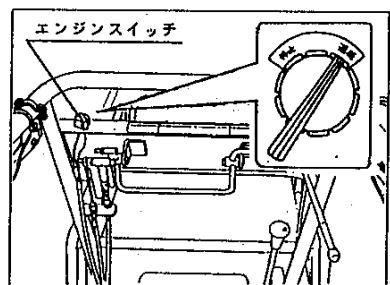
②走行クラッチレバーを「停止」位置にして下さい。
駐車ブレーキがかかります。



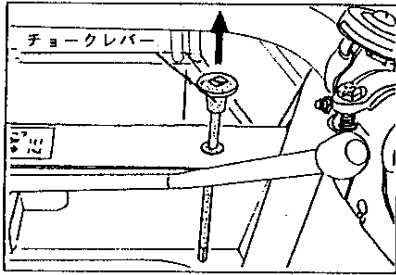
③変速レバーを中立「N」位置にして下さい



④燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。



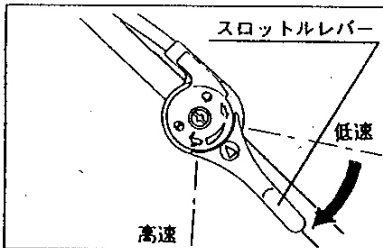
⑤エンジンスイッチを「運転(ON)」位置にして下さい。



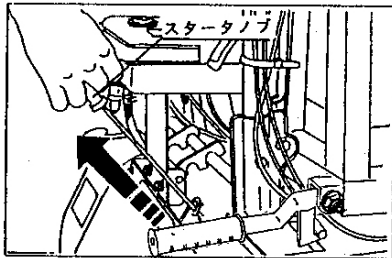
⑥チョークレバーを操作して「全閉」の位置にして下さい。

参考:

エンジンが暖まっているときは、チョークレバーの操作は必要ありません。

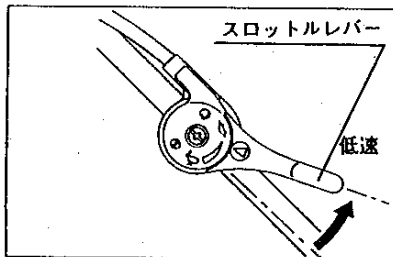



⑦スロットルレバーを「」と「」の間位置にして下さい。

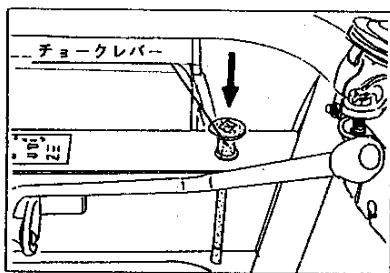


⑧スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張って下さい。

エンジン始動後は、直ちにスタータノブを元の位置にゆっくりと戻して下さい。



⑨エンジンが始動後、スロットルレバーを低速側「」位置にして下さい。

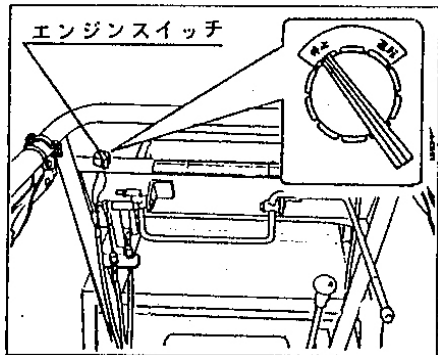



⑩チョークレバーを一杯に押し込んで「全開」にし、しばらく（3～5分間）暖機運転をして下さい。

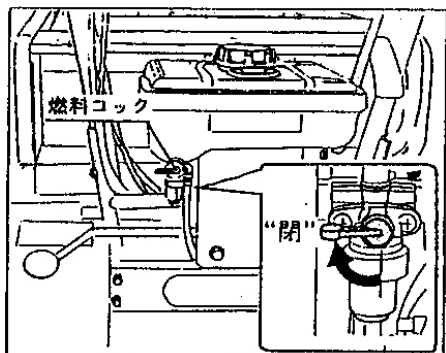
▲ 注意

- 新品購入後、最初の一週間（約30～40時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行って下さい。
- チョークレバーを「全閉」位置のまま使用すると、エンジンがスムーズに回転しないばかりでなく、エンジン各部に悪影響を与え、寿命を短くしますのでご注意下さい。
- エンジン始動後は負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ、エンジンの寿命を延ばします。

エンジン停止のしかた

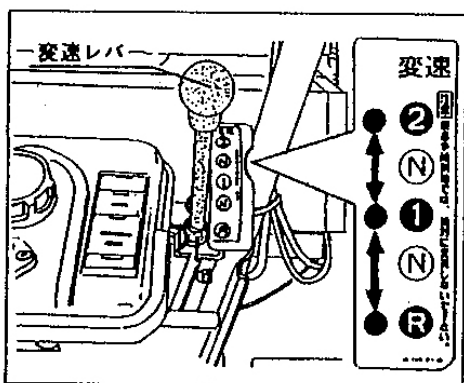


- ⑪ スロットルレバーを低速側「」位置にし、エンジンスイッチを「停止(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。



- ⑫ 最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

《走行・変速・停止のしかた》



□ 走行のしかた

- ① エンジンを始動させて下さい。
 〈12 頁・エンジン始動のしかた参照〉
- ② 本機の前、後、左、右の安全を確認して下さい。
- ③ 変速レバーを所要の変速位置に確実にに入れて下さい。

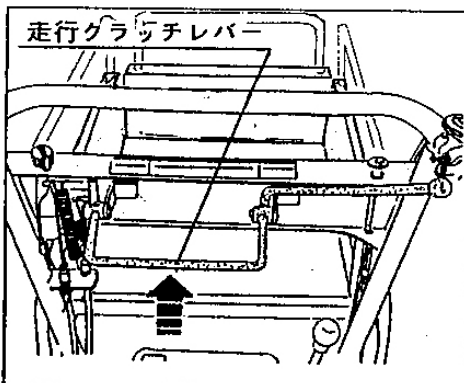
▲ 警告

- 変速(ギヤチェンジ)が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。

ギヤが入りにくいときには無理に入れず、走行クラッチレバーを「走行」位置方向へ少し動かした後、再度変速操作を行って下さい。

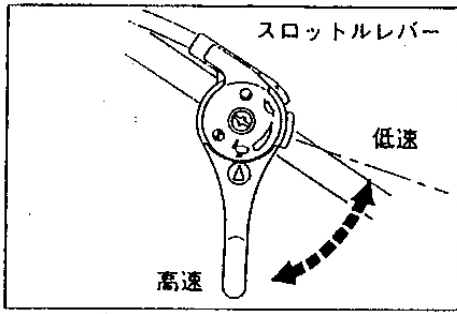
- 走行しながらの変速操作は危険です。変速は必ず本機を停止した後に行ってください。



- ④ 走行クラッチレバーを「走行」位置にゆっくりと引き上げ、発進させて下さい。

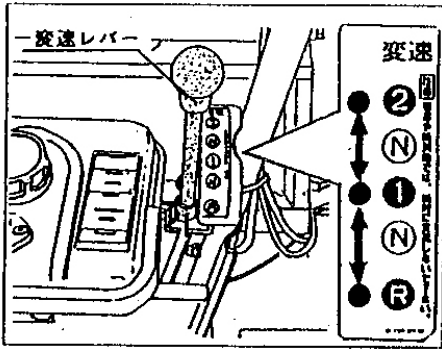


参考：

走行クラッチレバーを一気に引き上げると、積荷の状況によってはエンストする場合があります。



⑤スロットルレバーを低速側「」から高速側「」へ徐々に動かし、走行速度を調整します。



変速のしかた

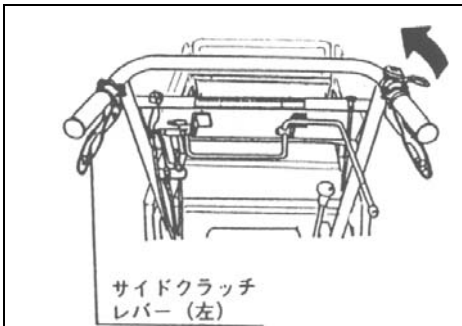
⑥本機を停止させた後、上記の走行のしかた②～④迄の操作を繰り返して下さい。

〈14 頁…停止のしかた参照〉

旋回のしかた

▲ 警告

左右両方のサイドクラッチレバーを同時に握ると急停車しますが、同時に非常に危険ですので積載時及び危険回避の場合を除き、このような操作はしないで下さい。



● 左旋回する場合

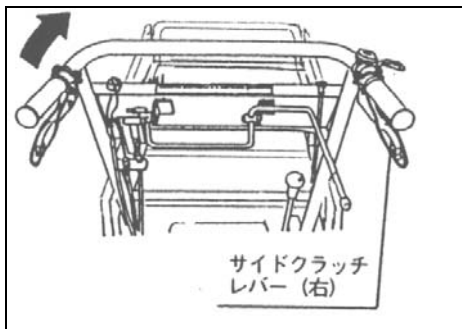
①左側サイドクラッチレバーを握って下さい。

▲ 注意

緊急の場合を除き、急旋回は避けて下さい。
サイドクラッチレバーを小刻みに操作しながら旋回して下さい。

● 右旋回する場合

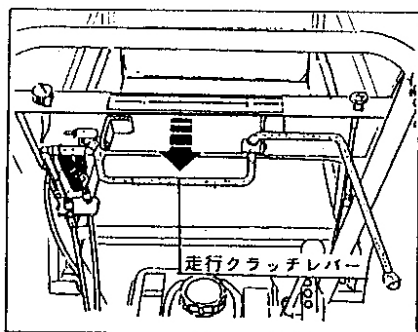
②右側サイドクラッチレバーを握って下さい。



▲ 注意

緊急の場合を除き、急旋回は避けて下さい。
サイドクラッチレバーを小刻みに操作しながら旋回して下さい。

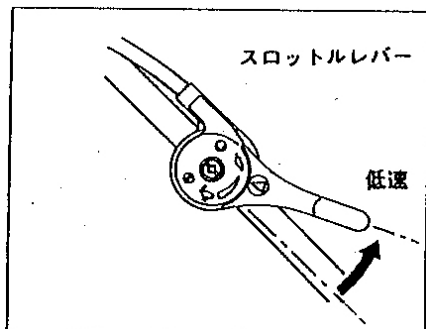
□停止のしかた



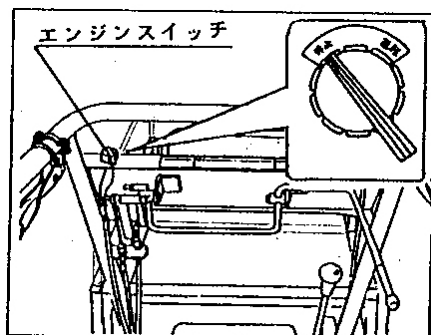
- ① 走行クラッチレバーを「停止」位置にして本機を停止させて下さい。駐車ブレーキがかかります。

▲ 警告

積載時及び傾斜地においては本機が反動で浮き上がることがありますので十分に注意して下さい。



- ② スロットルレバーを低速側「」位置にして下さい



- ③ エンジンを停止させて下さい。

〈14 頁・エンジン停止のしかた参照〉

▲ 警告

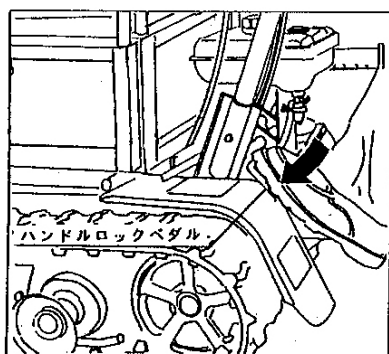
本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

《立ち乗り操作のしかた》

▲ 警告

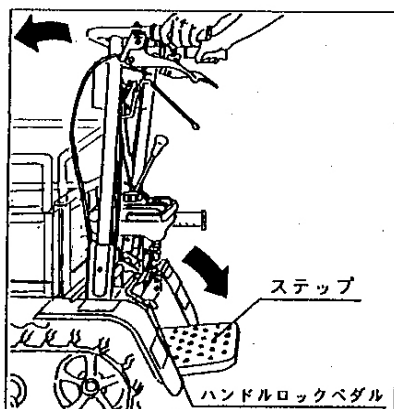
立ち乗り操作のための切換えは、必ず停車状態で行って下さい。

走行中に行うと、運転姿勢が崩れ危険です。



- ①ハンドルロックペダルを足で踏み込み、ハンドルのロックを解除して下さい。

□立ち乗り運転時：

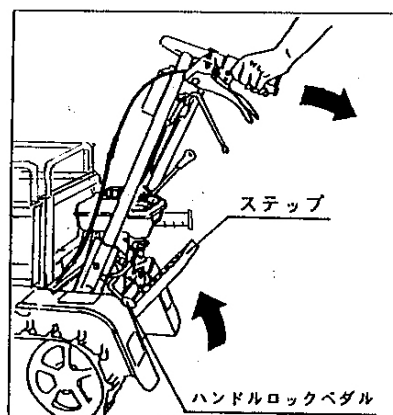


- ② ハンドルを前方“立ち乗り時”位置まで倒します。ステップが連動して下がります。

▲ 警告

トラックへの積み降ろし、坂道や傾斜地での立ち乗り運転は転倒等、非常に危険です。立ち乗り運転は、平坦地に限定して下さい。

□歩行運転時：



- ③ハンドルを手前“歩行時”位置まで引きます。ステップが連動して跳ね上がり、格納されます。

▲ 警告


トラックへの積み降ろし、坂道や傾斜地では低速で歩行運転を励行して下さい。

▲ 注意

ハンドルロックを一旦解除した後は、ハンドルを“立ち乗り時”位置もしくは“歩行時”位置まで確実に移動させ、ハンドルロックペダルをロックして下さい。

《トラックへの積み降ろしのしかた》

▲ 警告

- 積み降ろしは必ず空車の状態で、さらに歩行運転で行って下さい。
- 運搬に使用する自動車は荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。
- 本機の直前は危険です。誘導者を本機の直前に立たせないようにして下さい。
- ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速、ダンプの操作はしないで下さい。
- 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。
- トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「停止」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。
- 本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- 積み込む場合は前進「①」位置、降ろす場合は後進「(R)」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。さらにスロットルレバーは「」位置にし、エンジンプレーキを十分に利かせながらゆっくりと行って下さい。

□ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、本機からは降りて操作して下さい。
- ② トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引、さらに「車止め」をして下さい。
- ③ 基準に合ったブリッジを使用して下さい。
- ④ 左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

参考；ブリッジ基準

ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台までの高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機のクローラ幅にあったもの。
- 強度…本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るもの。
- 表面…スリップしないように表面処理が施されたもの。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲注意

- 出荷時本機にオイルは入れてありますが、初めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルが指定の量だけ入っているかを確認後にご使用下さい。
- 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖気運転した後停車し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

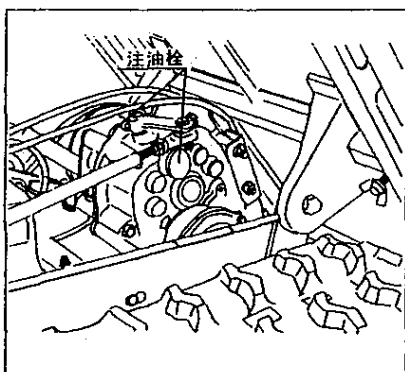
※エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

※エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい。 ■

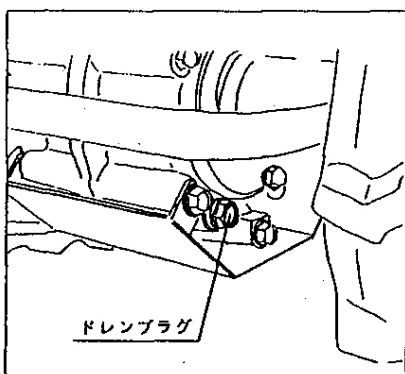
ミッションオイルの点検・補給・交換

◎点検・補給…



- ① 荷台を手動でダンプさせます。
〈10頁…ダンプ操作のしかた参照〉
- ② ミッションケース上部の注油栓を取り外して下さい。
（オイル栓は左右両面にあります。）
- ③ 口よりオイル量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）します。
- ④ 注油栓を左右両面ともに確実に取り付けて下さい。
- ⑤ 荷台を下降させて下さい。

◎交換…

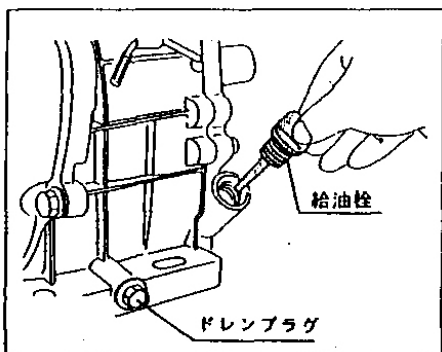


- ① オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ② ミッションケース左側面下部のドレンプラグ（注油栓）を取り外し、オイルを抜き取ります。
参考；同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。
- ③ ドレンプラグを確実に取り付けた後、ミッションオイル（#90）を1.6リットル注油して下さい。

交換の目安

初回：50時間目、2回目以後：100時間毎

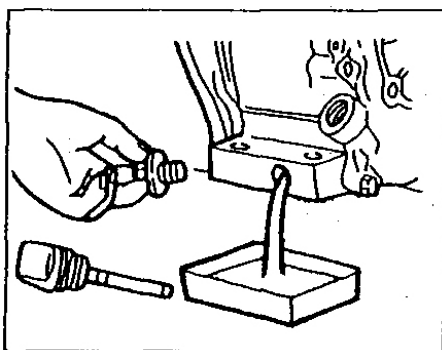
エンジンオイルの点検・補給・交換



◎点検・補給…

①毎日、もしくは8時間毎に〈12頁…エンジン始動のしかた〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）します。

（使用するエンジンオイルの質及び量は11頁参照）



◎交換…

②オイルを受け取る適当な容器を用意します。

③エンジン後部にあるオールドレンプラグ（排油栓）を取り外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。

参考；同時に給油栓も取り外しておくこと、オイルが抜き取りやすくなります。

④ドレンプラグを確実に取り付けます。

⑤〈11頁…エンジン始動のしかた〉を参考に指定のエンジンオイルを注油して下さい。

交換の目安

初回：20時間目、2回目以後：50時間毎

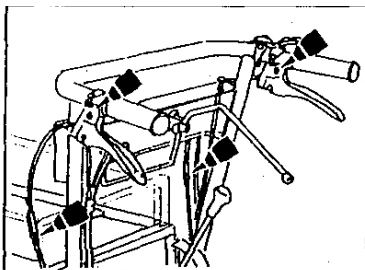
●但し、高負荷又は高温下での連続長時間使用の場合には、上記目安より早めの交換を励行して下さい。

可動部への注油のしかた

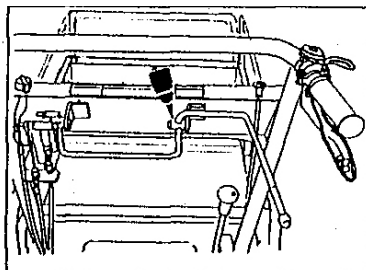
◎約30時間毎にエンジンオイル（#30）を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れによりサビ付や焼き付きの原因となり、操作が重くなって最悪の場合、破損の原因となる恐れもあります。

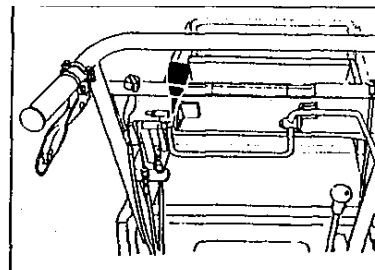
サイドクラッチレバー及びバネ支点



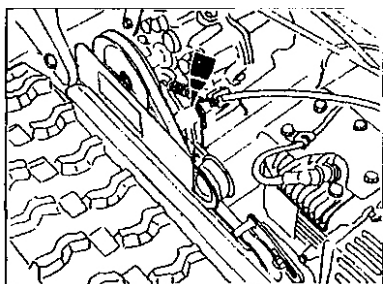
走行クラッチレバー支点（右）



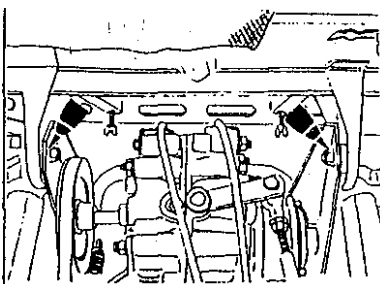
走行クラッチレバー支点（左）



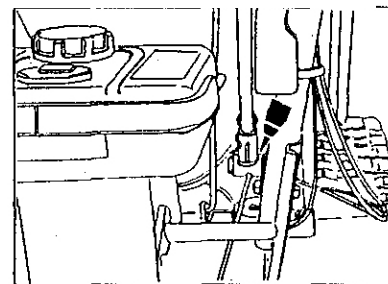
走行レベコーム支点



ダンロ°支点

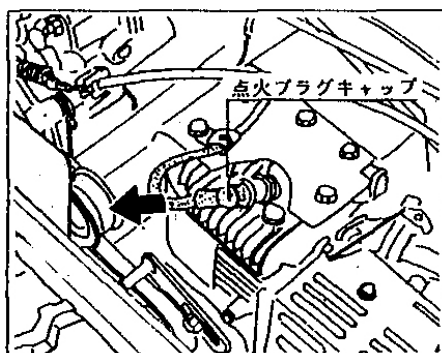


変速レバ°支点



《各部の点検・整備・調整のしかた》

点火プラグの点検・調整のしかた

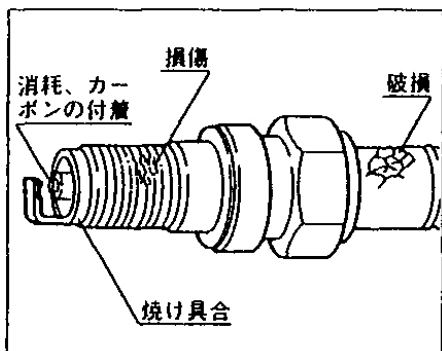


□点検・清掃…

- ① 火プラグキャップを取り外します。

▲注意

点火プラグキャップを取り外すときには、コードを引っ張らず、必ずプラグキャップを持って取り外して下さい。



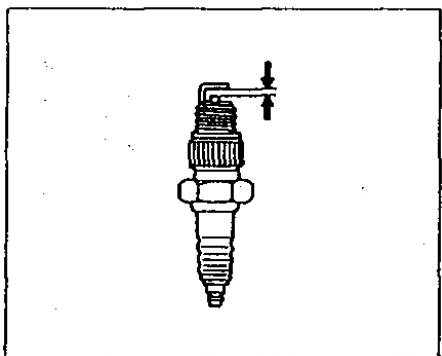
- ② プラグラレンチで点火プラグを取り外します。
- ③ 電極部分にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれをウエス等で拭取って下さい。
- ④ 中央陶器部分にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められる場合には点火プラグを新品と交換して下さい。

〈点火プラグ仕様…7頁《仕様》参照〉

□調整…

- ⑤ ラグの両電極を紙ヤスリえ磨いた後、電極隙間が基準値になるように調整して下さい。

基準値：0.6mm～0.7mm



- ⑥ 点火プラグを取り付けます。

参考：

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグラレンチを使用して下さい。

始めからプラグラレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

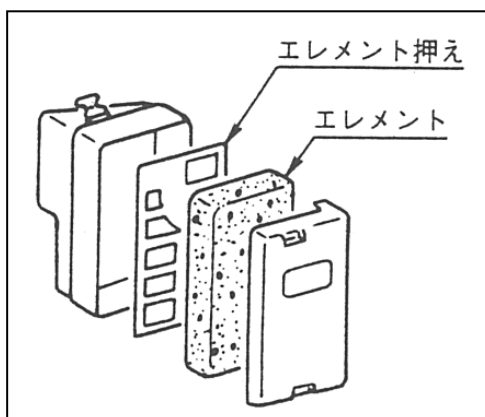
エアクリーナの清掃のしかた

▲ 警告

エアクリーナが目詰まりをすると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより、火災の原因ともなりますので、必ず定期的に清掃して下さい。

…エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないで下さい。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常磨耗の原因となります。…

□ 乾式



- ①カバーを取り外し、ホコリやゴミを気化器側に入れないよう注意深くエレメントを取り外して下さい。
- ②フォームエレメントを中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。
- ③その後新しいエンジンオイル（SAE10W 30 相当）に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ⑤ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、各エレメントを元の通りにカバーを取り付けて下さい。

参考：

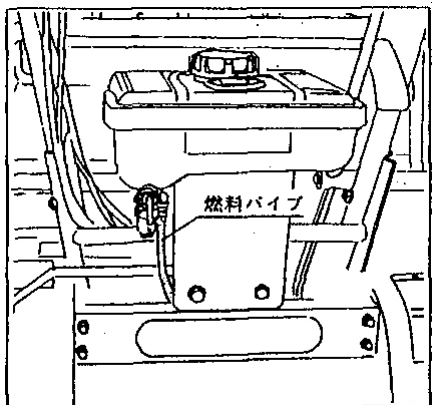
- ・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品と交換するか、石鹼液で洗浄（振り洗い）した後、水洗いし良く乾かして下さい。
- ・洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
- ・ペーパーエレメントを叩く時には、ろ紙を傷付けないように注意して下さい。
- ・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
- ・乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

清掃	交換
…25時間毎…	…100時間毎…

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険

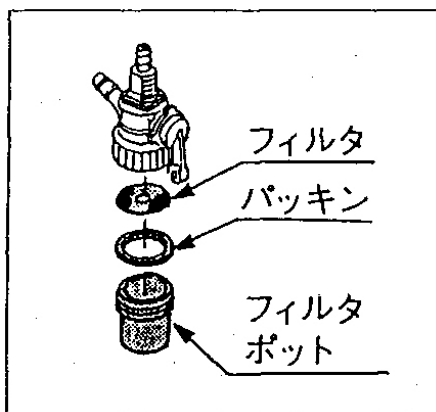
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷ついているか常に注意して下さい。

参考：

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタポットの清掃のしかた



⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃してください。
 - ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ①燃料コックを「OFF（閉）」位置にして下さい。
 - ②燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを使って乾燥させて下さい。
 - ③元の通りに確実に組み付けて下さい。

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

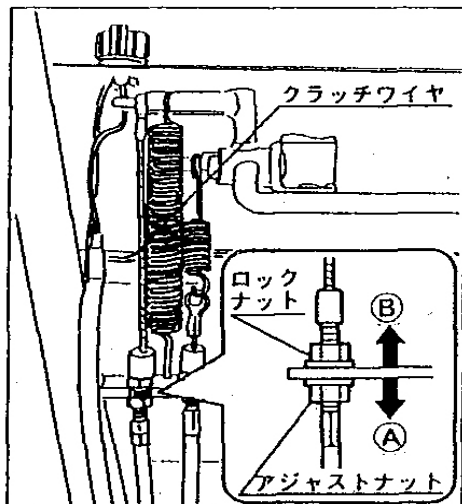
《その他の点検》

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ②Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。
〈 24 頁…走行クラッチワイヤ調整参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。
〈 29 頁…定期自主点検表参照〉
- ⑥各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ⑦本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。
 - ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
 - ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 注意

各ワイヤ・ベルトを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。



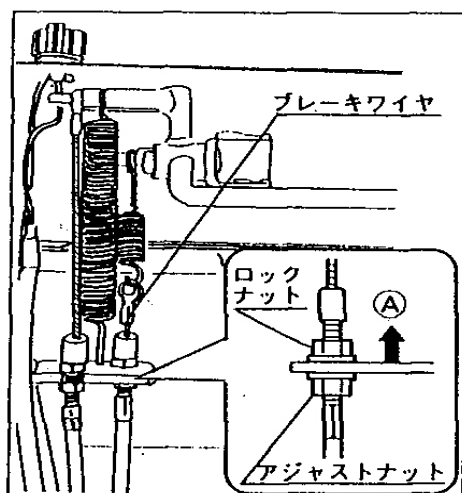
□ 走行クラッチワイヤ

- ① 走行クラッチレバーを「停止(下側)」位置にして、走行クラッチワイヤをフリーの状態にして下さい。
- ② 走行クラッチワイヤのロックナットを緩めて下さい。
- ③ アジャストナットを回し、走行クラッチワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・ 走行クラッチを入れても負荷がかかるとVベルトがスリップする場合。
…アジャストナットをBの方向へ…
 - ・ 走行クラッチの切れが悪い場合。
…アジャストナットをAの方向へ…
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

□ ブレーキワイヤ

▲ 警告

ブレーキの利きが甘いと本機の暴走等、非常に危険です。逆にブレーキを引きすぎると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

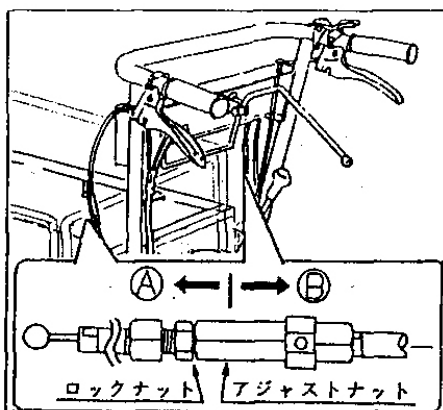


- ① 走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、ブレーキワイヤをフリーの状態にして下さい。
- ② ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
- ③ アジャストナットを回し、ブレーキワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・ ブレーキの利きが甘い場合。
…アジャストナットをA方向へ回転させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」でブレーキワイヤ付け根のバネが5～6mm程度伸びるように調整して下さい。
 - ・ ブレーキを引きすぎる場合。
…上記と逆の調整をします。
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

□サイドクラッチワイヤ

参考；

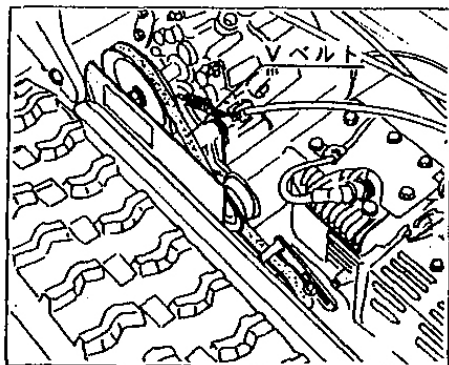
サイドクラッチレバーの遊びが多くなり利きが甘くなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤの中間アジャスタで調整して下さい。



- ①サイドクラッチワイヤ中間アジャスタのロックナットを緩めます。
- ②アジャストナットを回し、サイドクラッチワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合。
…アジャストナットをⒶの方向へ…
 - ・サイドクラッチレバーの切れが悪い場合。
…アジャストナットをⒷの方向へ…
- ③調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

■サイドクラッチレバー先端部での遊びが2～5mm程度になるように調整して下さい。

□走行Vベルト点検



- ①荷台をダンブさせます。
〈10頁…荷台ダンブ操作のしかた参照〉
- ②走行Vベルトに損傷がないか目視点検し、損傷が確認された場合には交換して下さい。
〈26頁…ベルト押さえ調整のしかた参照〉
- ③荷台を元の位置に戻します。
〈10頁…荷台ダンブ操作のしかた参照〉

参考；

走行Vベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

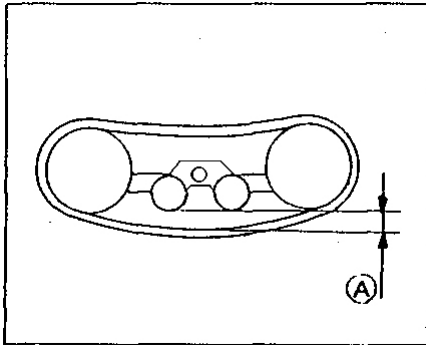
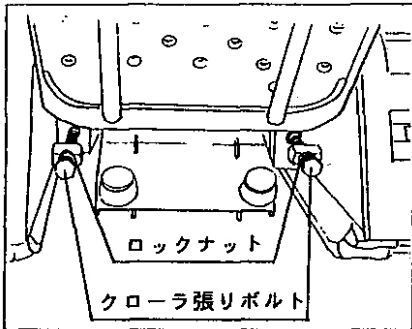
走行Vベルトサイズ	SA28 × 1本
調整時期	初回：2～3時間目 以後：50時間運転毎

□クローラ張り調整

▲ 注意

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともに、スプロケットとのなじみによる緩みが生じてきます。

クローラの張りが正しく調整されていないと脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮めますので以下の要領に従って、クローラの張りを調整して下さい。



- ① ジャッキアップ等をして本機を地面と平行に浮かして下さい。

▲ 警告

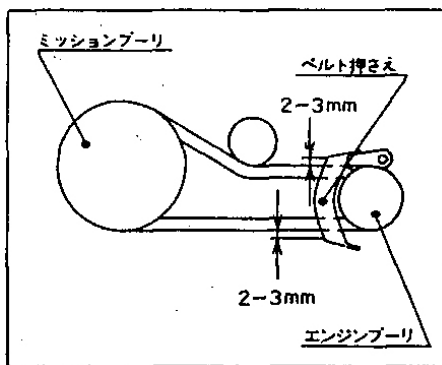
ジャッキ等が作業中に外れると非常に危険です。しっかりと固定して下さい。

- ② 車体後部のクローラ張りボルトのロックナットを緩めて下さい。
- ③ クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪との隙間Ⓐが8mm程度になるよう調整して下さい。
- ④ 左右のクローラの張りが均等になるよう調整下さい。
- ⑤ 調整後、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ⑥ 本機を降ろして下さい。

□ベルト押さえ調整

参考：

走行クラッチの切れが悪い原因として、ワイヤの調整不良の他にベルト押さえの調整不良があります。Vベルトの交換等によりベルト押さえを取り外した場合には、以下を参考にベルト押さえの調整を行って下さい。



- ① 荷台をダンブさせます。
〈10頁…荷台ダンブ操作のしかた参照〉
- ② 走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、走行Vベルトとベルト押さえとの間隔が上下ともに2~3mm程度になるようにベルト押さえの位置を調整して下さい。
- ③ 荷台を元の位置に戻します。
〈10頁…荷台ダンブ操作のしかた参照〉

参考：

ベルト押さえはエンジンプーリの約1/3程度に位置させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」位置のときに、ベルトを軽く押さえ、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がる様にセットします。

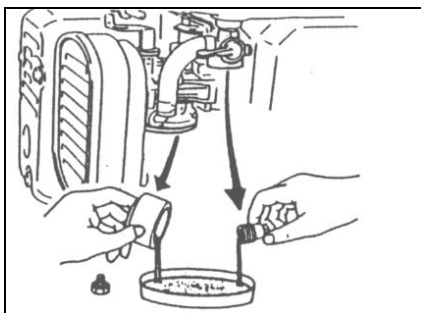
《長期保管のしかた》

⚠ 危険

★エンジンを停止して下さい。

〈14 頁…エンジン停止のしかた参照〉

- 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- 本機は、固い平坦な場所で本機を水平にして保管して下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時、本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが冷えているのを確認してからにして下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。

- 燃料タンクの燃料は、燃料フィルタポットを外し、受皿等を当ててから燃料コックを「ON (開)」位置にして抜いて下さい。
- 気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して燃料を抜いて下さい。

②車体やクローラに付着した泥や異物をきれいに取り除いて下さい。

…水洗いをする場合、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。…

③エンジン及び本機の外面をオイルを浸した布で清掃して下さい。

④エンジンオイルを交換して下さい。

〈20 頁…エンジンオイル交換参照〉

⑤各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

… 泥やホコリが堆積したまま作業を続けると …

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

⑥各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をして、不具合箇所は修理しておいて下さい。

⑦走行クラッチレバーは「停止(下側)」位置にして下さい。

⑧屋根のある風通しの良い固く乾燥した地面の上に本機を水平にして保管して下さい。

⑨本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。

… 通常時の使用後のお手入れは上記②・⑤～⑨を励行して下さい。 …

寒冷地での注意

- 冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
- 又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。
(無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意下さい。)

《工具袋明細》

No.	部 品 名	規 格・寸 法	個 数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具	エンジン付属品	1	
④	両口スパナ	10×12	1	
⑤	〃	14×17	1	
⑥	〃	19×22	1	

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
①	Vベルト	89-6122-002800	1	LA28
②	ブレーキワイヤ	80-1920-319-00	1	
③	走行クラッチワイヤ	80-1920-961-00	1	
④	サイドクラッチワイヤ	80-1920-962-00	2	
⑤	スロットルワイヤ	0914-75100	1	
⑥	ゴムクローラ	80-1920-401-00	2	160W×60P×35L
⑦	警告マーク6種	0913-73400	1	
⑧	注意マーク ⑰	83-1516-908-00	2	このカバーなし…

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期			
		始業	月次	年次	
原	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。異音がないか。	○	○	○
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
	④シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み ※	ガス漏れ、亀裂、腐食はないか。(正常締付トルクで弛みはないか。)			○
	⑤弁すきま ※	(正規の隙間であるか。)			○
	⑥圧縮圧力 ※	(正規の圧縮圧力であるか。)			○
	⑦エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み	エンジンベースに亀裂、変形又はボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
動	潤滑装置				
	①油量、汚れ	オイル量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
	②油漏れ ※	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
機	燃料装置				
	①燃料漏れ(タンク、燃料パイプの劣化等)	燃料タンク、パイプ等からの燃料の漏れはないか。	○	○	○
	②燃料フィルタの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
	③燃料の量及び質	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	④燃料ホース	ホースこそすれ、ひび割れ、敗れはないか		○	○
電気装置					
①電気配線の接続部の弛み、損傷	ハーネス接続は適切か、又弛み、こそすれ、ショート、損傷はないか		○	○	
②点火プラグ電極の隙間、消耗、カーボンの堆積	電極に消耗、又はカーボンの堆積はないか。又隙間は適切か。			○	
清浄装置					
①エアクリーナーケースの亀裂、変形及び取り付け状態。	ケースに亀裂、変形はないか。取り付け状態はよいか。		○	○	
②エレメントの破損、及び汚れ。	エレメントに汚れ、破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統					
①リコイルカバーへの泥・草屑等の目詰まり	リコイルカバーが泥・草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
②マフラーへの泥・草屑等の堆積	マフラー周辺に泥・草屑が堆積していないか	○	○	○	
伝達装置	走行クラッチ				
	①走行クラッチの断続具合	走行クラッチがスムーズに断続するか。	○	○	○
	Vベルト				
	①ベルトの張り具合	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
	②損傷、汚れ	亀裂、損傷、油脂等での著しい汚れはないか。		○	○
ミッショ					
①異音、異常発熱及び作動状態	作動に異常(ギヤ抜け)はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○	
②油量、汚れ	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○	
③油漏れ ※	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○	
操向装置					
①サイドクラッチの作動状態	確実に作動するか。	○	○	○	

※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
車体・荷台	荷台部	①荷台の上下、荷扉のスライド状態	スムーズに作動するか。	○	○	○
		②各部の亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか。	○	○	○
		③取り付けボルト、ナットの緩み、脱落	ボルト、ナットに緩み、脱落はないか。	○	○	○
	荷台落下防止	①荷台落下防止棒の取り付け状態	曲がり及び変形はないか。		○	○
レバー及びワイヤ	①レバー及びワイヤ類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損	作動及び取り付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか		○	○	
走行装置	車輪 誘導輪 スプロケット	①亀裂、変形、磨耗	亀裂、変形または著しい磨耗はないか。	○	○	○
		②軸部の異音及び異常発熱	異音又は異常発熱はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤軸部周辺からの油漏れ	油漏れがないか。	○	○	○
	クローラ	①スチールコードの切断及び損傷	切断又は著しい損傷がないか。	○	○	○
		②ゴムの欠け、劣化及び磨耗	著しい欠け、劣化、又は磨耗がないか。	○	○	○
		③クローラの張り具合	緩み、又は張り過ぎはないか。	○	○	○
	クローラ張りボルト	①張りボルトの変形又は腐食	変形、腐食はないか。		○	○
	制動	ブレーキ	①駐車ブレーキの効き具合	ブレーキの効き具合は適切か。 (無負荷状態で1/5勾配の傾斜面で停止の状態に保持できるか)		○
②レバー、ワイヤの作動状態。割ピンの欠損			レバー、ワイヤの作動はスムーズか。割ピンに欠損はないか。	○	○	○
表示マーク		①損傷	注意・危険・指示銘板が損傷なく取付けられているか。		○	○

※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《故障の原因とその処置》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。



現 象	原 因	処 置
走行しない (走行クラッチが入らない)	走行ワイヤ調整不良。	走行ワイヤを調整する。 24 頁参照
	Vベルトの磨耗及び折損。	Vベルトを交換する。 25 頁参照
	ギヤが完全に入っていない。	ギヤを確実に入れる。
	駐車ブレーキが効いている。	駐車ブレーキを解除する。
	ミッショントラブル。 ※	ミッションケースの分解修理。
停車しない (走行クラッチが切れない)	ベルト押えの調整不良。	ベルト押えを調整する。 26 頁参照
	走行ワイヤ調整不良。	走行ワイヤを調整する。 24 頁参照
サイドクラッチが戻らない (切れない)	サイドクラッチワイヤの調整不良。	サイドクラッチワイヤを調整する。 25 頁参照
	サイドクラッチレバーもしくはワイヤの錆び。	点検後、注油又は交換。
	爪クラッチの磨耗、又は破損。 ※	ミッションケースの分解修理。
ミッション付近から異音がある	ミッションオイルの不足、又は極度の汚れ。	点検後補給、あるいは交換する。 19 頁参照
	ベアリング又はカラーの磨耗。 ※	ミッションケースの分解修理。
	ギヤ又はベアリングの損傷、又は磨耗。 ※	ミッションケースの分解修理。
ギヤが抜ける	確実に変速していない。	確実に変速する。
	変速ロッドの曲がり、又はシフトギヤの磨耗。 ※	変速ロッドの修正、又はシフトギヤの交換。
	過積載。	最大積載量以下で使用する。
変速操作できない	シフトギヤの破損、焼き付き又はベアリングの磨耗。 ※	ミッションケースの分解修理。
	変速ロッドの曲がり。	変速ロッドの修正、又は交換。
駐車ブレーキの効きが悪い	駐車ブレーキの調整不良。	駐車ブレーキワイヤを調整する。
	駐車ブレーキワイヤの錆び。	点検後注油、又は交換。
	ブレーキライニングの磨耗。 ※	ブレーキライニングの交換。
	ブレーキドラム内に水が浸入している。	数回ブレーキをかけて中の水を乾かす。
	過積載。	最大積載量以下で使用する。
スムーズに走行しない	過積載。	最大積載量以下で使用する。
	駆動スプロケットの磨耗、及び破損。 ※	スプロケットの交換。
	転輪、及び誘導輪の破損。 ※	転輪、及び誘導輪を交換する。
	クローラの張り不足、又は磨耗。	クローラの張り調整、又は交換。
クローラが外れる	クローラの張り不足、又は磨耗。	クローラの張り調整、又は交換。
転輪、誘導輪から異常発熱 又は不連続音がある	ベアリングの磨耗、又は破損。 ※	ベアリングの交換。
	転輪、及び誘導輪の変形、破損。	転輪、及び誘導輪の修正、又は交換。

※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを必ず「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない  の位置でない。	エンジンが冷えている時、チョークレバーを引いて  の位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。 燃料コックのフィルタポットを取外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフィルタに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、バルブ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換、又は補修しておく。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	気温によってオイルの使い分けをする。
	点火コイル、又はユニットの不良。 ※	点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極のスキマを点検し調整する。 新しい点火プラグと交換する。
エンジンが暖気した後停止する	点火コイルの不良。	点火コイルを交換する。
出力不足の場合	シリンダ・ピストンリングの磨耗。 ※	シリンダ・ピストンリングの交換。
	エアクリーナの目詰まり。	エアクリーナエレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す「閉」位置にする。
	冷却系統又は空気清浄系統が目詰まりを起こしている。	リコイルカバー、エアクリーナ周辺を清掃する。
	Vベルトの緩みによるスリップ。	Vベルトの張りを調整する。
	スロットルの調整不良。	スロットルワイヤを調整する。
	過積載。	積荷を減らす。
エンジンの異常振動	エンジンベースの劣化、亀裂。 ※	修理、又は交換する。
	その他 ※	
エンジンオイルの消費が早い	エンジンオイルの漏れ。 ※	点検及び修理した後、補充する。
	シリンダ・ピストンリングの磨耗によるオイル上がり。 ※	シリンダ・ピストンリングの交換。
燃料の消費が早い	燃料パイプの劣化による燃料漏れ。 ※	燃料パイプの交換。
	エアクリーナの目詰まり。	清掃、又は交換。
スロットルレバーが引っ掛かる	スロットルワイヤの折れ、サビ付き。	スロットルワイヤの交換。
	スロットルレバーの変形、作動不良。 ※	スロットルレバーの交換。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが開いていない。	燃料コックを開く。
	エンジンオイルの不足、又はオイル劣化による焼き付き。 ※	エンジンオイルの補給、又は焼き付き部分の交換。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
マフラーから黒煙が出て出力が低下した 場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エアクリーナエレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。「閉」位置にする。

マフラーから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの磨耗。 ※	シリンダ・ピストンリングを交換する。
エンジンの回転が安定しない (エンジン回転が上昇しない)	チョークレバーが開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。「閉鎖」位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	気化器内ジェットが目詰まり。 ※	気化器の分解、清掃。
しばらくするとエンストする	点火コイルの不良。 ※	点火コイルを交換する。
	燃料フィルタが目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気臭に刺激がある場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



株式会社
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
仙台営業所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2-1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長野サービス センター	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関東営業所	〒337-0051	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800	TEL. 0480-87-3008(代) FAX. 0480-87-3009
名古屋営業所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡山営業所	〒700-0951	岡山県岡山市田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福岡営業所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿児島営業所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491